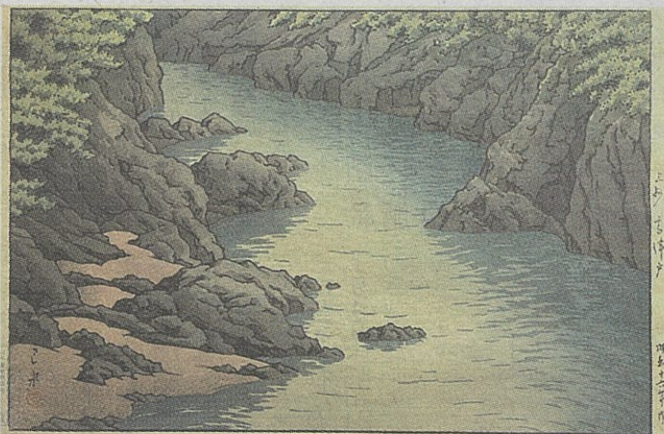


文化・芸術



「上州高津戸」

1941年、木版・紙
25・0センチ×38・0センチ（個人蔵）

川瀬巴水（1883～1957年）

絵師、彫師、摺師が協業し高い技術と芸術性を志し、新時代の木版画を再興しようとした

「新版画」。これをけん引したのが、渡邊版画店の渡邊庄三郎（1885～1962年）であり、川瀬巴水でした。

巴水は「旅情詩人」といわれ日本の懐かしき美しい風景を求め旅しました。その土地で丹念に写生して戻ると木版画に没頭し、数々の名作を発表しました。

◆

本作は、「大間々高津戸橋16・5・24」と記された同構図のスケッチが一枚残されています。前後のページには「

《名画の扉》

大川美術館特集展示「コレクションによる日本の木版画」から

【ご案内】19日（土）午前10時半からは、佐野広章氏による「木版画体験ワークショップ」が開催されます。